

いわみ道の駅建設工事設計業務プロポーザル審査委員会

審査総評

今般、岩美町において「いわみ道の駅建設工事設計業務」をプロポーザル方式によって公募したところ、3設計業者から企画提案書の提出があり、当委員会で審査を行った。短い準備期間にもかかわらず各社それぞれ充実した提案書を作成され、公開ヒアリングにおいても意欲の感じられる説明をいただいた。各委員とも納得のいく審査会とすることができ、提案をいただいた各設計業者の協力に敬意を表したい。

さて、この度の評価にあたっては、各委員が提案者名を伏せた提案書を事前に評価し、その後公開ヒアリングで各提案者からの説明を受け、質疑をとおして更に理解を深めた。そのうえで事前評価に見直しをかけ、ヒアリング終了後に各委員の評価に対する詳細な検討と討議を行い、最優秀案の選定を行った。

そのなかで最優秀の評価を得たのは提案者Cであった。全体的にバランス良くまとまった提案であり、各評価項目に対して適切な提案内容が示されていた。特に、町民を来客のターゲットとして施設づくりを進めるという観点は、その平面計画、動線計画が委員から高く評価された。反面、半屋外空間とした屋外デッキについては、面白みのある提案との意見があった一方で、全面に庇を設ける計画としてはいるものの、雨や雪の多い本町の地域特性から耐久性や防滑性を懸念する意見があがった。

提案者Aについては、目玉となる大型水槽を入口正面に配置することで来客の目を引き、この道の駅の中核となる農林水産物直売エリアへの動線を確保することができるとの評価があった。一方で、コンビニエンスストアの配置や施設本体と分断した屋外通路に対する懸念、提案内容に対する説明の曖昧さが感じられた。

提案者Bについては、アクティブパークやクライミングウォールの設置といったこれまでの道の駅とは違った新しい道の駅の姿を求めた斬新で意欲の伝わる提案と説得力のあるプレゼンテーションが評価された。一方で、それらの施設の整備がコスト高に繋がる懸念が挙げられたほか、提案のあった滞在できる施設としては規模が小さく、そのコンセプトに対する委員の評価を得ることができなかった。

以上の審査結果から、当委員会は各評価項目に対して全体的にバランスのとれた内容を提示し、施設運営の観点からも完成度の高い提案をされた提案者Cを最優秀とすることとしたので、ここに報告する。

平成25年8月27日

岩美町長 榎本 武利 様